




# シチズングループのマテリアリティ

## 2020年度の新たなマテリアリティ

マテリアリティ	マテリアリティ	貢献を目指すSDGs
コーポレート・ガバナンスの強化	経営の透明性と健全性の確保のための内部統制システムの整備や、グループ全体での効率的な業務執行、および適正な監督を通じてシチズングループの継続的な企業価値向上を目指します。	
品質コンプライアンスの強化	企業理念「市民に愛され市民に貢献する」をもとに策定したグループ品質行動憲章に則り、ものづくりの全プロセスにおいて、品質に係るコンプライアンス遵守の徹底を図ります。	
人権の尊重と労働慣行	グローバルにビジネスを展開する企業として、バリューチェーン全体にわたって、人権を尊重する責任を果たすよう努めます。また、多様性を認め合い、互いの能力を高め合う企業風土を強化し、誰もが安心・安全に働ける職場づくりを実践します。	
持続可能な調達の推進	グループ全体で調達活動の最適化を目指すとともに、バリューチェーン全体で、社会課題の解決を目指します。	
環境イノベーションの促進	シチズングループの製品や、バリューチェーン全体の事業プロセスにおいて、環境に配慮した事業活動を行うことで、新たな価値の創出に努めます。	

## マテリアリティの特定と見直しプロセス

シチズングループでは、2017年度より国際社会の一員かつ、「真のグローバル企業」としての責任を果たし、持続的に成長するために優先的に取り組むべきマテリアリティを特定しています。

マテリアリティの特定にあたっては、SDGs や、国連グローバル・コンパクト、ISO26000、RBA (Responsible Business Alliances / 責任ある企業同盟)、GRI スタンダード等のCSR・サステナビリティに関する原則・指針を参照するとともに、社会やステークホルダーにとって重要な社会課題を網羅的に把握し、また、シチズングループの企業理念や行動憲章、中期経営計画等の事業戦略と照らし合わせ、特に重要度の高い課題を特定することで、マテリアリティとして整理しています。

2020年度は、SDGs コンパスの指針に則して、

バリューチェーンを通じて事業活動が SDGs に及ぼす正・負の影響を把握した上、それらを社会にとっての影響度と事業にとっての重要度という2軸でマッピングし、双方に重要度が高い5つの課題をマテリアリティとして特定しました。

2020年度は、グループ全体の品質に関わるコンプライアンスの強化を図るため、「品質への取り組み」を「品質コンプライアンスの強化」に改めました。更に、「責任ある調達の推進」は、社会的責任の履行のみならず新たなバリューを生み出す活動であることから「持続可能な調達の推進」としました。

これら5つのマテリアリティについて、取り組みをより実効性のあるものとするために、2030年までのロードマップを作成し、目標、施策、KPIを明確に設定しました。

シチズングループのロードマップについてはwebサイト [https://www.citizen.co.jp/social/materiality/road\\_map/index.html](https://www.citizen.co.jp/social/materiality/road_map/index.html) にてご確認ください。